



## あけまして おめでとうございます

皆様、期待と希望に胸を弾ませて、新年のスタートを切られたことでしょうか。10日の始園式に220数名の元気な顔を見て、職員一同安堵しました。保護者の皆様は、昨年1年間を振り返り、目標達成ができたところや不十分だったところを踏まえ、さらに高い目標を目指して初めの一步を踏み出されたことと思います。

## 今学期の目標

3学期は、1年間の中でも一番短い学期で、あっという間に修園式を迎えることとなります。毎年、幼稚園としては1年間でこんな子どもに育ててほしいという目標を持って教育に当たっています。今学期はその意味でも大切なまとめの時期となります。特に、年長さんにとっては、小学校進学を目前に控えていますから、一人ひとりに生きる力の基礎が身に付くように指導をしていく責任があります。こうしたことから、目指す子ども像に迫るために、各年令・担当毎に以下のような目標を設定しています。

## 【たんぽぽ】

- 外で身体を動かす機会を多く持つ。
- 幼稚園への期待を高める。
- 母親に頼らず、自分の気持ちを教師に伝えられるようになる。

## 【保健室】

- 1年を通じて、けがや病気をしながらも、1人1人が成長していることを理解することができる。
- 1年間の最後の学期を十分に経験できるよう、みんなが怪我なく、元気に登園できる。

## 【年少】

- 今まで触れてきた遊びをより深めていく。
- 友達との関わりの中で、周りへの意識を持つ。
- 出来ている事はより確実に行えるようにし、それぞれ自信をつけていく。

## 【年中】

- 互いの気持ちを伝え合い、関わりを深める。
- みんなが気持ちよく過ごせるように行動に移しているようにする。
- 一人ひとりのよさに気づいていく。

## 【年長】

- 進学することに期待を持ち、生活面や対人関係など一つひとつ丁寧に見直して取り組んでいく。
- 誰に対してもどのような状況でも、自分の想いを言葉にして発信できるようになる。
- クラスの友だちへの信頼が深まり、安心して積極的な関わりが持てるようになる。

## 健康のために今年も七草粥

幼稚園では、12日に、今年1年の子どもたちの健康と安全を願って、七草粥をごちそうになりました。あっさりしてなかなかの味でした。最近の日本では、七草が簡単に手に入らないということから、七草の行事が行われなくなってきているようです。そのため、店では、七草をセットにして売られているようです。皆様のご家庭ではいかがでしたか？

七草は、古来「七種の節句」といわれ、七草粥を食べると、邪気を払い万病を除くといわれていました。

書物によると、中国では1月7日のことを「人日」（じんじつ）と呼び、七種類の野菜の羹を食べ無病を祈る習慣があったそうです。日本では、平安時代から1月15日に食べる習慣があり、当時の粥の中身は、「米、粟、キビ、ヒエ、ミノ、胡麻、小豆」の7種類であったとか。「枕草子」に七日の若菜という記述がありますが、七草の種類については諸説があり、また、地方によって異なっていたようです。

現在では、春の七草は、「芹、ナズナ、御形、ハコベラ、仏の座、すずな、すずしろ」のことを指します。ご存知と思いますが、ナズナはぺんぺん草、御形は母子草、ハコベラはハコベ、仏の座はたびらこ、すずなはカブ、スズシロは大根のことです。

幼稚園では、子どもたちは、担任と一緒に七草を探しに、百年の森やテニスコート周辺の草むらに行きます。残念ながら、カブや大根は見かけることができませんが、それでも3~4種類は見つけてきます。(この日のために園庭のどこかに植えておく必要があるかな?)

摘んできた数種類の野草と先生がベランダに提示した七草を見ながら、あちこちで「せり、なずな、ごぎょう、はこべら、・・・」の可愛い声が聞こえてきました。子どもたちは、言葉としてではなく、実物を見ながら七草を覚えていました。



石橋がくと君がお姉ちゃんと一緒に描いた七草の絵です。